

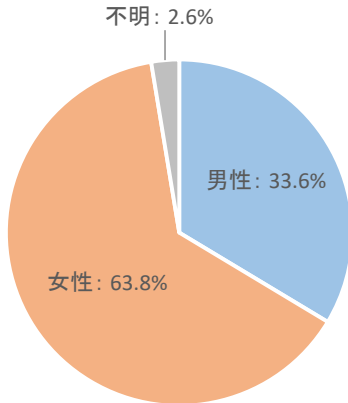
島原市在宅医療・介護連携に関する関係機関アンケート調査

【調査概要】

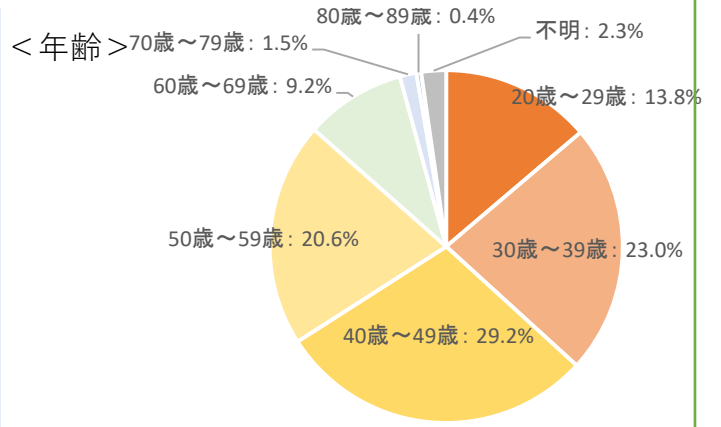
1. 実施時期：令和2年7月1日（水）～7月16日（木）
2. 調査対象：医療・介護等の関係機関に従事する方
3. 調査方法：配布回収によるアンケート調査
4. 回収率：95.1%（回収数922サンプル）

【回答者属性】

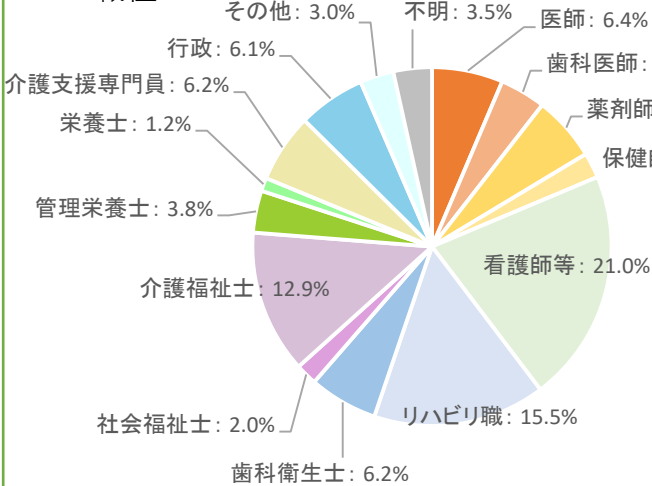
<性別>



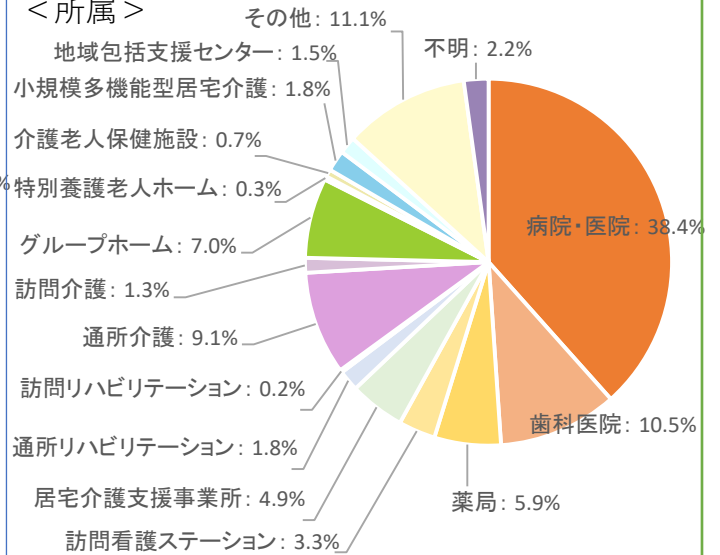
<年齢>



<職種>

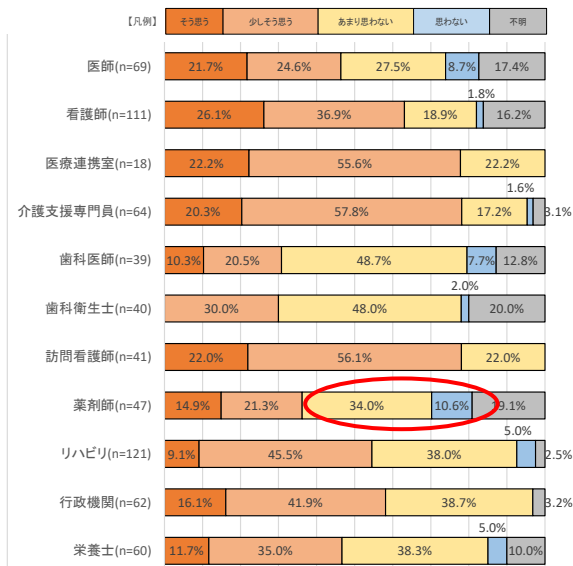


<所属>

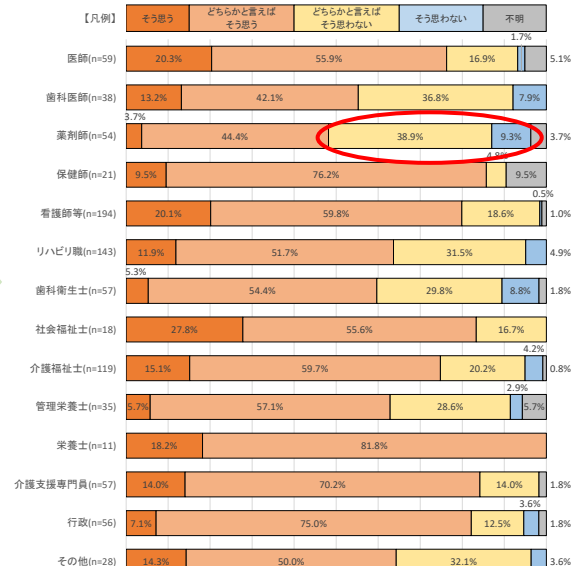


多職種との連携について

・多職種との連携が円滑に行われているかとの設問に対して「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」割合が高くなったが、職種別に見た場合、「薬剤師」において「どちらかと言えばそう思わない」、「そう思わない」との回答が48.2ポイントと高い割合を占めた。この傾向は平成27年の実施結果からも見て取れる。他の職種においては「栄養士」等に代表されるように肯定的な意見のポイントが増えた。



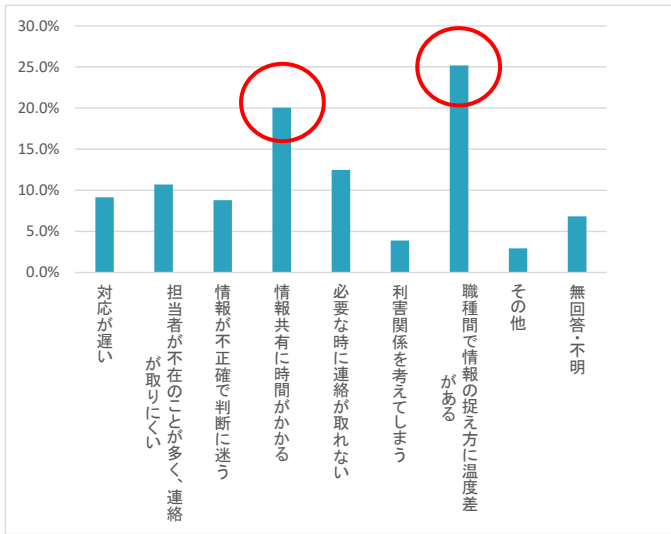
平成27年実施結果



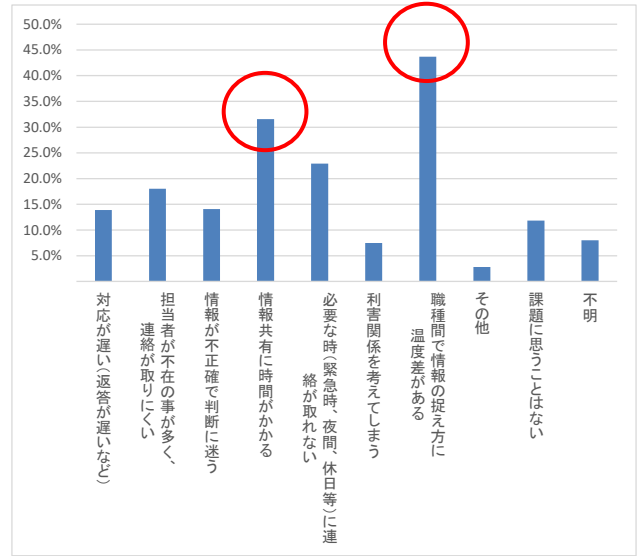
今回実施結果

多職種との連携における課題について

- 多職種と連携を行う際、課題に思う事として、「情報共有に時間がかかる」、「職種間での情報の捉え方に温度差がある」との回答が多く見られた。また、その他の意見として「連絡先、担当者が明確でない」などの意見もあり、今後の課題として多職種間の情報共有手段および、同一所属内での担当者間連携の改善が挙げられる。平成27年度と比較して同様の結果がでた。



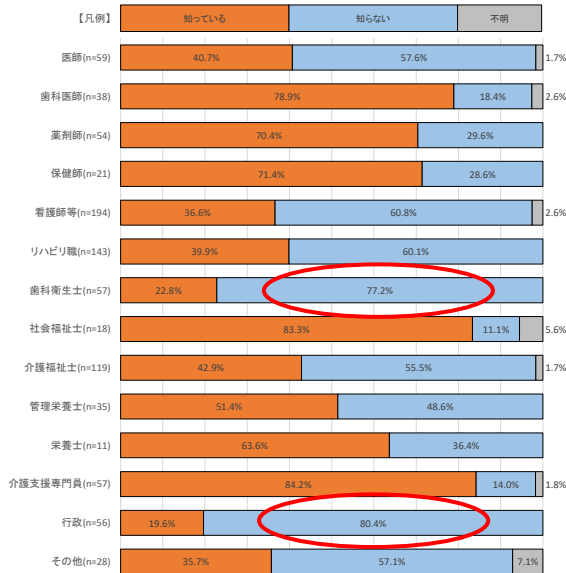
平成27年実施結果



今回実施結果

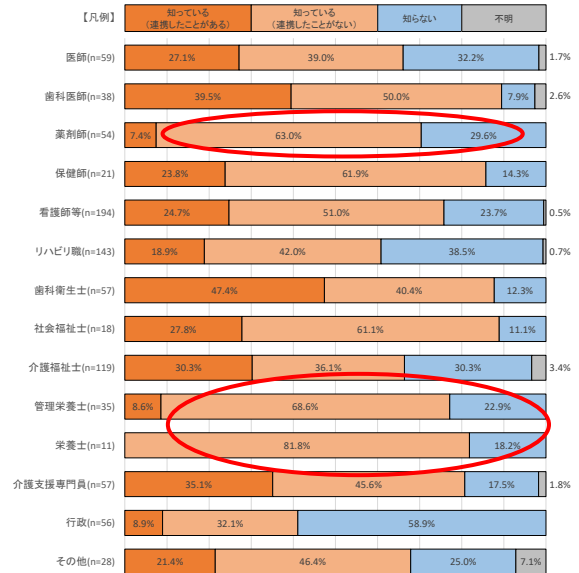
「在宅医療サークル」について

- 多職種連携のための研修会「在宅医療サークル」を開催していることへの認知度について約半数が「知らない」と回答した。職種別にみると「行政」「歯科衛生士」では約8割が該当し、顕著な傾向がみられる。



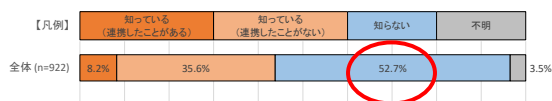
在宅医療に取り組んでいる歯科医院について

- 在宅医療に取り組んでいる歯科医院についての認知度に対して、連携したことがあるとの回答の割合が低い傾向にある。職種別にみると、「薬剤師」「管理栄養士」「栄養士」で顕著な傾向がみられた。また「行政」では「知らない」との回答が58.9ポイントとなっている。



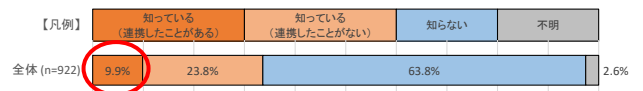
在宅医療に取り組んでいる管理栄養士について

- 連携した事があるとの回答は全体の8.2ポイントに留まり、知らないとの回答が52.7ポイントを占めた。



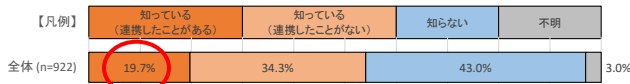
「訪問歯科地域連携室」について

- 全体における認知度の低さが見られるため今後の周知活動が重要。



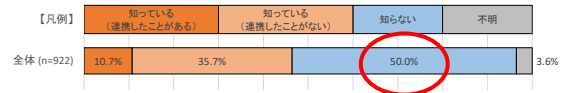
在宅医療に取り組んでいる薬剤師について

・連携した事があるとの回答は全体の19.7ポイントと低い傾向にある。



「島原薬剤師会薬局」について

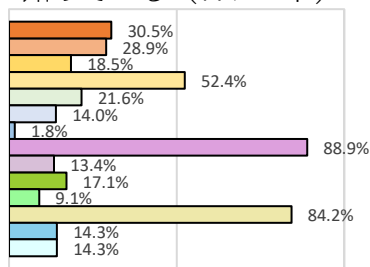
・全体で知らないとの回答が約半数を占め、認知度が低い傾向にある。



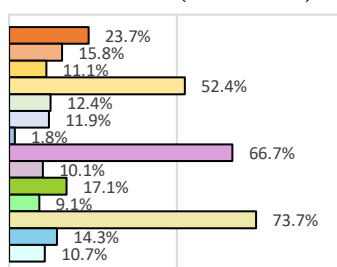
島原市情報提供・共有シートについて 【Aシート・Bシート・ものわすれ連携シート (Cシート)】

・島原市情報提供・共有シートについて知っているかとの質問に対して、「保健師」「社会福祉士」「介護支援専門員」以外は認知度が低いことがわかった。 今後は、他の職種への活用事例等の周知活動が重要。

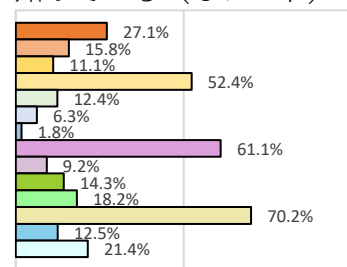
知っている (Aシート)



知っている (Bシート)

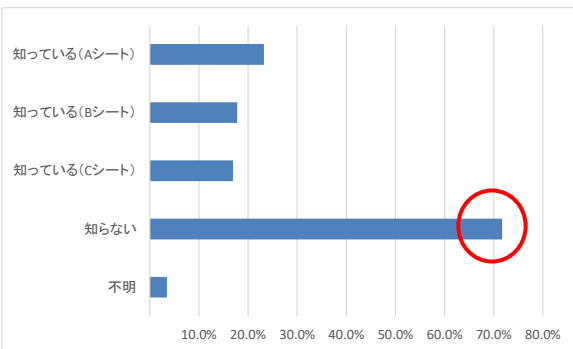


知っている (Cシート)



- 医師(n=59)
- 歯科医師(n=38)
- 薬剤師(n=54)
- 保健師(n=21)
- 看護師等(n=194)
- リハビリ職(n=143)
- 歯科衛生士(n=57)
- 社会福祉士(n=18)
- 介護福祉士(n=119)
- 管理栄養士(n=35)
- 栄養士(n=11)
- 介護支援専門員(n=57)
- 行政(n=56)
- その他(n=28)

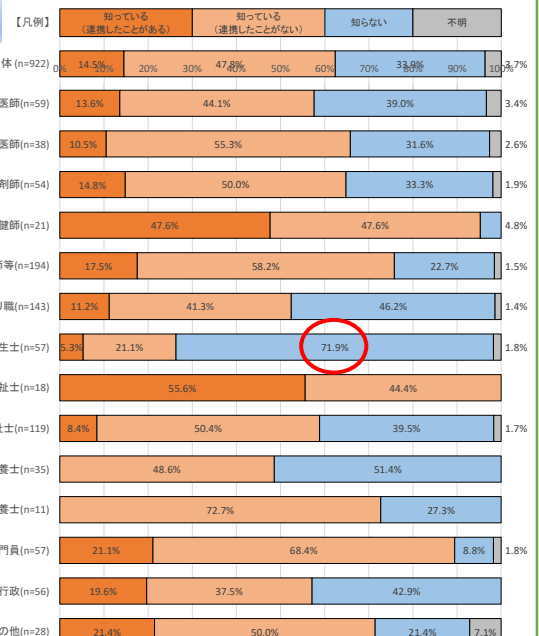
※Aシートは入院時に在宅支援者から医療機関に向けて、 Bシートは退院時に医療機関から在宅支援者に向けて、Cシートは物忘れが気になり医療機関を受診するときに使用するシート



「島原市在宅医療・介護相談センター」について

・全体において「知っている」との回答が62.3ポイントと認知度は高い。そのうち「連携したことがある」との回答は14.5ポイントにとどまっている。職種別に見ると、「歯科衛生士」において約7割が「知らない」との回答を示した。

※島原市在宅医療・介護相談センター：介護保険の保険者である島原地域広域市町村圏組合から島原市医師会が委託を受けて行っている事業所。



「島原市地域包括支援センター」について

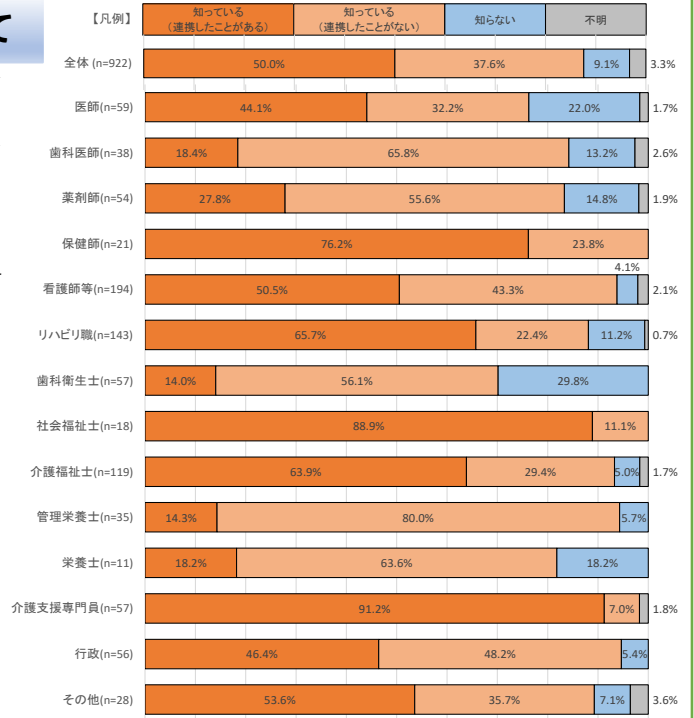
・全体の9割近くが「知っている」と回答し、さらに連携した事があるとの回答が約半数を占めた。職種別では知っているが連携した事はないとの回答を「管理栄養士」が80.0ポイント「歯科医師」が65.8ポイントと高い割合となっている。

※島原市地域包括支援センター：

島原地域広域市町村圏組合（介護保険者）・島原市・地域の各種団体・医療機関・サービス提供事業者・ボランティアなどと協力しながら、地域の高齢の方々が自分らしく生活できるよう活動し、さまざまな相談に対応する総合的な役割を担っている。

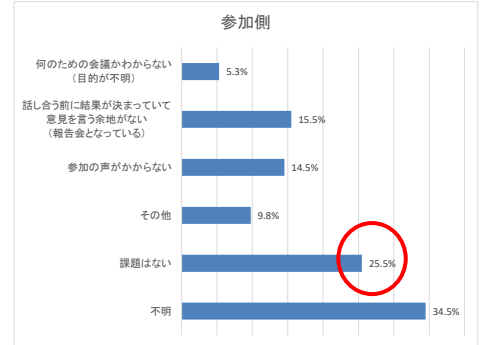
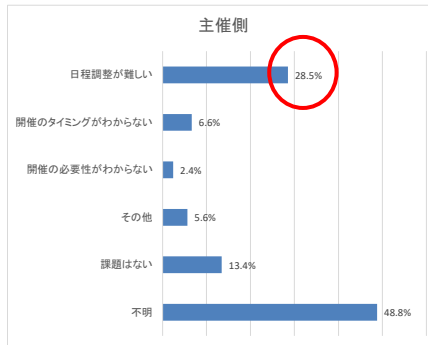
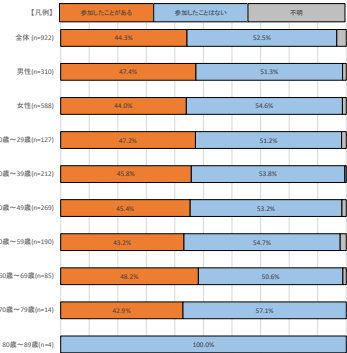
（主な事業）

- ◇ 島原市高齢者等見守りネットワーク事業
- ◇ 社会資源集「ちからこぶ」
- ◇ 広報誌「みてみよかい」
- ◇ 島原市在宅医療・介護相談センター



退院カンファレンスについて

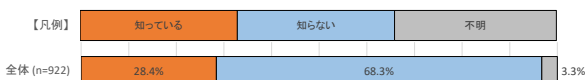
・主催側の意見として、「日程調整が難しい」の選択が28.5ポイントを占め、参加側の意見として、「課題はない」の選択が25.5ポイントを占めた。「課題はない」「不明」が大きな割合を占めた要因として参加した事がない方が選択した事が要因となっている。今後の課題として、参加機会を増やす手段の検討等が挙げられる。



人生会議（ACP）について

・「知らない」との回答が68.3ポイント、「知っているが参加したことがある」との回答は14.5ポイント、また「考えた事がない」との回答が43.5ポイントを占め、認知度の低さと参加経験者の少なさが判明した。

<知っているか>



<参加した事があるか>



<考えた事があるか>



在宅医療・介護連携事業の推進について

・在宅医療・介護を推進するために必要な事として、「市民への情報提供、普及啓発」69.5ポイント「在宅医療・介護についての相談窓口の周知」61.4ポイント「多職種連携の強化」67.6ポイントと同傾向で大きな割合を占めた。

